

市民文芸

短歌

阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

市長賞 さつそうと口笛の主現れる検針員の笑
顔に乾杯 佐野 幸子

議長賞 ふたりからひとりづつ増えひとりづつ
減りて食卓 今限界に 中山 善嗣

教育長賞・互選賞一位 芳しき新葉の香につつま
れて刈田に立てば梵鐘の鳴る 西崎まき子

互選賞二位 悪しきこと憂きことなべて忘れ去り
傘寿のわれを愛して生きん 五島 秀子

互選賞三位 「おじいちゃん最後に会えずグメンネ」
とコロナを嘆く孫の弔電 原 美智子

特選 蟬形の間人となりて仰向けり廃業手続き
了へたる部屋に 中原きみ子

特選 百年前「スペイン風邪」を病みし祖母思
いつつ買う三次元マスク 川口 節子

特選 刃先からアースされ行けわが邪念消しゴ
ムはんこで彫る熱帯魚 森岡 政子

特選 共に負を担えるものか一ひとつ欠けて鳥
と書く鳥おもう 木内 照代

特選 母の声「冷えとるうちに早よ食べで」盆
に盛られし西瓜の匂う 手塚都樹子

川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

日本晴れ白寿はくじゆに挑む万歩計
ロボ君に部下の扱い任せたい
薬にも毒にもならぬ課長さん
ジョークかなと道々今も考える

子の電話すぐに笑顔だいいサブリ
おばあちゃんスマホ片手に時価調査
一般応募 野口 吾朗

初日の出豊かな風の中で生き
コロナ禍で化粧代わりにマスク選る
こつそりと昔の恋に逢いにゆく
要 不要 頻度重視の衣の処分 吉田 當代

俳句

阿南市文化祭誌上俳句大会 選

市長賞 海の神祀る岬へ小鳥来る 喜来富士子
議長賞 赤とんぼ渡船で通う一年生 中富はるか
教育長賞 撓たがいつつこぼす光や竹の春 谷中喜代子
俳連賞

共同の水道ひとつ墓洗ふ 近藤 まい
母の炊く白粥うまし終戦日 中野 郁子
一望は刈田となりて夕日さす 村崎 静子
粉殻ののんびり焼けて星一つ 庄野 早苗
大根まく九十二歳の豆しぼり 久米 千草
一行の詩となり星の流れけり 加藤 和子
帰省せぬ子と長電話盆の月 山野 賢治

一つ焼きあとは煮浸し秋の茄子
助手席に飛蝗を連れて出荷かな 中川よし子
黄金の稲穂の海をコンバイン 高木 閑人
糠床に入れる秋茄子ひと揉みす 小西 晴美
盆僧のマスク越しなる読経かな 大西 裕子
田中 栄子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

北ノ脇閑歩 吉形 和恵
短日寥寥涼笑話 短日 寥寥 笑話涼しく
長汀瑟瑟透輕羅 長汀 瑟瑟 輕羅に透る
兩三釣艇平波漾 兩三の釣艇 平波に漾い
海色渝攸峙翠螺 海色 渝あわ攸とさ峙すいら翠螺峙つ

※翠螺―青い巻き貝の形をした小島
※二豎―病氣のこと ※天功―天のなすわざ

丑年新年

原 美智子

旭光普照拂雲影 旭光普あまく照らして 雲影を払い
牛歩日新前歳終 牛歩日に新たに 歳終すずに前む
二豎難題盡人智 二豎の難題 人智を尽くし
五輪大會待天功 五輪の大会 天功を待つ

印度の佛跡を訪ぬ

松原 伸夫

雪山南麓訪藍園 雪山の南麓 藍園らんえんを訪ぬ
生地廟祠聖樹繁 生地あいくさの廟祠 聖樹繁る
阿育王碑遺跡古 阿育王碑 遺跡ゆ古り
祥氛萬歲滿乾坤 祥氛万歳 乾坤に満つ

※阿育王―アシヨカ王